

製品名: CTNNB1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80788**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC, ICC, ELISA, FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.03%アジ化ナトリウムを含む PBS。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000, ICC 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:20000, FC 1:200-1:400
分子量	85kDa

抗原情報

遺伝子名	CTNNB1
別名	CTNNB; FLJ25606; FLJ37923; DKFZp686D02253; CTNNB1; Beta-catenin
遺伝子 ID	1499.0
SwissProt ID	P35222
免疫原	大腸菌で発現したヒト CTNNB1 の精製された組み換え断片。

背景

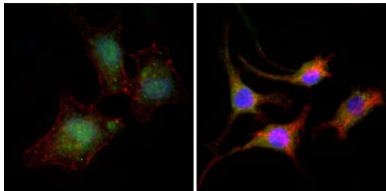
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、接着結合 (AJ) を構成するタンパク質複合体の一部です。AJ は、細胞の成長と細胞間の接着を調節することで、上皮細胞層の生成と維持に不可欠です。また、コードされるタンパク質はアクチン細胞骨格を固定し、

上皮シートが完成したら細胞分裂を停止させる接触阻害シグナルの伝達を担っていると考えられます。最終的に、このタンパク質は、大腸腺腫性ポリープ症で変異している APC 遺伝子産物に結合します。末梢細胞質に存在する異なるタンパク質、 α 、 β 、 γ カテニン (102、94、86 kDa) は多くの組織に存在し、細胞接着カドヘリンの保存された細胞質末端ドメインに結合します。カテニンは E カドヘリンを他の膜貫通タンパク質または細胞質タンパク質に結合させ、Wnt1 プロトオンコジーンによって制御されます。 β カテニンの中心コア領域は、カドヘリン・カテニン複合体と EGFR の相互作用の媒介に関与しています。 β カテニンを介したシグナル伝達は、脊椎動物の神経発達のいくつかの段階に関与しています。

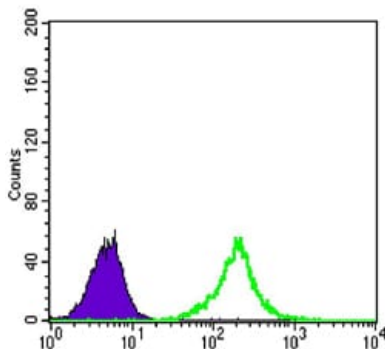
研究分野

Wnt シグナル伝達経路、Hippo シグナル伝達経路

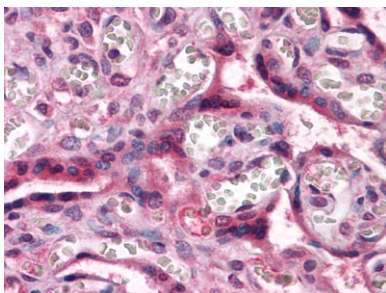
画像データ



CTNNB1 マウス mAb (緑) を用いた A549 細胞 (左) および SK-BR-3 細胞 (右) の免疫蛍光染色。赤: DY-554 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。



CTNNB1 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (紫) を使用した A549 細胞のフローサイトメトリー分析。



CTNNB1 マウス mAb を用いたパラフィン包埋ヒト胎盤組織の免疫組織化学分析